夕刊 磐城時報

廿七日

編輯兼發行 印刷人 岡田成 印刷所 加納活版所 發行所 磐城時報社 一部金武錢 一ケ月金卅錢 廣告料一行十二字詰五十錢 日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

平町豫算町會 委員附托となる

三日間休會して審議 來月三日本會議

平町昭和十二年度豫算審議の町會は二十七日午前十時から開き青沼町長が編成について詳細な說明をなした後委員會に附托となつた。委員會は豫算調査のため二十九日から三月二日まで休會し三日本會議を開き審議する事になつた。明年度豫算は總額四十六萬六千七百十三圓で、歳出經常部は三十一萬一千三十九圓、臨時部は十五萬五千六百七十四圓である。豫算委員は萩原、松崎、佐々木、多田井、根本、馬目、吉田、猪狩、酒井、綠川、關內、花澤、新井、會川、野崎の各氏である。

▽歳入(△は減)

科目	豫算	前年比
一、財産ヨリ生ズル收入	四五六	
二、使用料及手數料	一〇、八二五	二、八四五
三、水道工事費收入	六、四四二	一、〇七四
四、交付金	五、〇五六	九四六
五、國庫下渡金	二八、五〇一	一〇〇
六、納付金	五	
七、就學奬勵金	三二〇	一四
八、國庫補助金	三、七五四	八四〇
九、縣補助金	二、八三〇	八七、五四九
一〇、寄附金	三〇、〇三二	一二、七九一
一一、繰入金	三、〇〇〇	三、〇〇〇
一二、財産賣拂代	一五、五〇一	△一〇、一七三
一三、繰越金	三、〇〇〇	五、八五〇
一四、雜收入	三、二六五	三、二四五
一五、町税	一五四、八五六	二、六一〇
一六、町債	八〇、〇〇〇	△三三、〇〇〇
歳入合計	四六六、七一三	△一八、四〇六

歳出(經常部)

科目	豫算	前年比
一、神社費	一六〇	
二、會議費	二、一七五	△七五
三、役場費	五一、〇二七	九八九
四、土木費	一〇、一〇八	三〇九
五、小學校費	八四、三三三	二、八七三
六、商業學校費	二七、六二四	三九〇
七、青年學校費	二、五九五	一六二
八、學事諸費	四二六	三〇六
九、トラホーム豫防費	五〇四	
一〇、傳染病豫防費	一、〇六九	
一一、寄生虫病豫防費	一〇五	
一二、傳染病院費	三、七四二	
一三、汚物掃除費	八、五五三	
一四、水道費	一四、四〇三	一、四〇三
一五、公園費	三、三一〇	△一三五
一六、火葬場費	一、三三八	
一七、勸業費	一、三九〇	△一四五
一八、統計費	三三一	
一九、職業紹介所費	三、三六一	三六
二〇、社會事業費	三五〇	△五〇
二一、救護費	一、九八九	△二八
二二、警備費	八、八二三	二八七
二三、徴發物輸送費	一	
二四、財産費	五六三	一四
二五、諸税負擔	二〇〇	△一二
二六、公金取扱費	五一〇	
二七、公會堂費	二〇	二〇
二八、雜支出	一、二五六	一、〇六五
二九、公債	七三、一三五	△一、三六八
三〇、戻入金	一、八〇一	四五
三一、地方改良費	三、三六八	四五〇
三二、豫備費	七、〇〇〇	八〇八
經常部計	三一一、〇三九	七、一七七

歳出(臨時部)

科目	豫算	前年比
一、土木費	三五、六九七	二、〇〇九
二、小學校費	四、九三三	六六
三、商業學校費	四一〇	△一、三八〇
四、選擧公營費	五	
五、警備費	五、一二四	△八九四
六、傳染病院費	三〇〇	△七六〇
七、公園費	三〇〇	三〇〇
八、寄附金	九、一五九	八、〇〇五
九、補助費	三、〇三一	二四一
一〇、市制調査施行費	一、〇〇〇	△一、〇〇〇
一一、訴訟費	五	五
一二、役場費	五〇〇	△五四二
一三、水道費	一七、二八〇	五、八七八
一四、都市計畫調査費	一、三七五	八〇
一五、土地拂下繼續費本年度支出額	一、三五〇	
一六、商業學校敷地買收繼續費本年度支出額	一、五〇六	一、五〇六
一七、公會堂費	八〇〇	八〇〇
一八、商業學校建築費	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇
一九、雜支出	二、九〇〇	△二、一六五
(火葬場費)		△七〇〇
(小學校建築費)		△三七、五二七
(商業學校調査費)		△五〇〇
(公會堂建築費)		△八〇、〇〇〇
臨時部計	一五五、六七四	△二五、五八三
歳出合計	四六六、七一三	△一八、四〇六

藤田畫伯 平に滯在

茨城縣出身藤岡紫峰畫伯は二十五日來平三月七日に谷口樓に開く畫會の揮毫を行つてゐるが二十六日から數日間釜屋商店諸橋久太郎氏の需めに應じ額を執筆してゐる。

▲青沼町長出張 青沼平町長は石城町村長會長として來月二日農村振興交付金の運動に上京する。

四回も流會した 勿來町長選擧

大平氏說有力となる 町會

勿來町長選擧の町會は既に四回流會となる紛糾を重ねてゐたが來る三月一日更に町會を開いて町長選擧を行ふ、大体に於て助役横山太一氏の昇格說が有力であつたが最近に至り元縣議大平睦四郎氏を推す者多く兩派對立の貌となり成行注目されてゐる。

山文事件の判決 求刑通り言渡

五名は執行猶豫 山田氏等は控訴

山田文一氏事件の判決は二十七日午前十時平區中島裁判長から左の如く言渡しがあつたが、山田文一、山田茂一郎の兩氏は直ちに控訴する事になつた。

△懲役一年(二十日間未決拘留通算) 贈賄竊盜公正證書原本不實記載行使 山田文一(五五)

△懲役十ケ月(未決拘留三十日通算) 業務横領贈賄公正證書原本不實記載行使 金澤四郎(三六)

△懲役十ケ月(未決拘留二十日通算)竊盜 山田茂一郎(三五)

△懲役三ケ月但シ三年間執行猶豫 加藤重義(三五)

△懲役八ケ月三年間執行猶豫竊盜 宮下勇二(二七)

△懲役六ケ月同竊盜 內藤七郎(三五)

△懲役六ケ月同四倉町磐城セメント會社 岡田仙(四二)

△懲役六ケ月同內郷村磐城炭礦倉庫部 山口馬太郎(四四)

平窪村の盟休事件 全く軟化す

平署に出頭して 非合法的運動を謝す

平窪村の合併反對運動は益々激化するものと憂慮されてゐたが村當局及び平署員の說得で過激な反對運動も漸次軟化し兒童盟休に加盟した村民一同は二十五日夜某所に集合協議の結果非合法的運動の非をさとり二十六日朝代表者下平窪吉野喜憲吉氏外十五名が平署を訪問『誠に申譯ない今後この種運動期は絶對にさせぬ』と誠意を以て謝罪して來たので特高室に集合柴田署長から一同に訓辭をなした。このため一時は五十五名に達した盟休兒童も二十六日朝には僅か五名、頑張に頑張つてゐるのは二名を殘すのみとなつたので村當局でも安堵した。

▲落盤で慘死 磐崎村湯長屋板原正(二四)は二五日午前十時頃第二磐城炭礦斜坑で採炭中落磐で慘死した。

蛭田川の工事入札

蛭田川改修に伴ふ勿來町窪田地內古車橋、唐澤橋四澤の三橋は二十七日平土木監督所で入札を執行する、工費五千圓である。

▲三井家の慶事 平町四町目三井富吉氏令弟三井五郎氏(三二)は縣會議員關內正一氏夫妻の媒酌で平町古鍛治町神谷亥三男氏六女保子(二三)さんと婚約成り二十七日午前華燭の盛典をあげ谷口樓で披露の宴を張つた。新郎は昭和醫專から日大醫學部を終えた醫學士新婦は磐城高女出の才媛である。

ライトインキ 大景品付 特賣大賣出し

ニオンス入(金三十錢)御買上の方へ抽籤にて左記景品進呈

一等 ライト萬年筆……一本

二等 ライト二色シャープペンシル 一本

三等 ライト自由日記……一册

四等 セルロイドポケツトカレンダー 一個

小田吉治氏に紺授褒賞

好間村小田吉次氏は一昨年磐城高等女學校講堂建築費として一萬二千圓を寄附したので二十七日提き遂より紺授褒賞を授與された。

大和田氏の葬儀執行

四倉町字新町町會議員並同町信用販賣購買利用組合の理事其他の各關係會社の社長、監査役等を務めてゐた大和田安太郎氏の葬儀は今二十七日午後二時出棺同町海藏寺に於て佛式に依り營んだが各關係會社側より送られた花輪は約八十餘個にして會葬者四百餘名で盛葬をなした。

大和田氏の未亡人寄附

四倉町新町大和田安太郎氏未亡人キチさんは左の各團体並に小學校等に寄附をなした。

五十圓 四倉小學校、五十圓 同町水難救濟會事業費 五十圓 同町消防組事業費 三十圓 同町青年團事業費 二十圓 在郷軍人四倉分會

◎絶對丈夫さを誇る優秀な弊店特選品…◎

ランドセル

◎新學期が近づきました

◎御入學洋品を豊富に取揃へました

正 中野洋品店 平 二・壹五三

水難救濟會で功勞者表彰

四倉水難救濟會の昭和十一年度の定期總會は去る二十五日午前九時より同町漁業組合階上に於て同組合の功勞者並勤續會員を表彰し

魚清自慢のなべ料理

鯛ちり　五十錢
鯛なべ　五十錢
鱈ちりなべ　三十錢
ちりなべ　三十錢
はもなべ　三十錢
あんこはべ　三十錢
いかなべ　三十錢
よせなべ　三十錢

かきなべ　三十錢
ねぎまなべ　三十錢
煮込なべ　三十錢
鳥なべ　三十五錢
牛なべ　三十五錢
豚なべ　三十五錢
吸なべ　三十五錢

えび天丼……三十錢
えびフライ……二十五錢
えび天ぷら……二十五錢
あんこともす……十五錢
かき酢……二十錢
かきラライ……二十錢

キントンあります

平二、警察署通り
魚清食堂
電話六三三

國華ポマード颯爽たり

皆様の美容室『理髪東京』は『オールサービス』の満全を期し國華ポマードを初め全部高級化粧品を使用し行届いた技術と共に奉仕致して居ります。

帝國美容師會々員
東京國華會 パーパーチエン
理髪 東京

三井タクシー
平町二丁目
電話六八五番

干やなぎ
いか切込の御注文は
是非 仙 魚店へ
美味…体裁優美は
當店のモットーです
鰹節・塩辛
鮮魚仕出し
丸仙
電六六二番

互融會事業近況

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、税金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通

融通報告（昭和十二年自一月一日至一月卅一日）現在
會員數　六、一四二口
世帶數　四、一六四戸
積立金　五九・九四五・八一
融通數　一、三二二口
融通金額　八〇・一六三・三
融通金回収高　一九・五四八・五〇

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平町掻槌小路一番地
小名濱方部　小名濱町古港
菊田方部　植田町臺町
湯本方部　湯本町天王崎
相双支部　原町東一番町

職工募集
一、製罐工　五名
一、仕上工　五名
一、收入　日給一圓以上二圓迄
（食費當方持）
右至急募集シマス
希望ノ方ハ當所マデ御出デ下サイ
平町月見町
合資會社　佐藤鐵工所
電話三六二番

産科 婦人科 外科 藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　内木宗八
藥劑師　大岩俊雄
入院隨意
病室完備
平町新川町十九
木村病院
電話一六四番

開院
皮膚科 泌尿器科 花柳病科 專門
診療　午前八時ヨリ
時間　午後九時マデ
平町田町（山内醫院跡）
入院隨意
江尻醫院
電話六九一
醫學博士　江尻伊三郎

夜間診療
胃腸 内科 胃腸病科
性病 花柳病科 性病科 泌尿器病科 皮膚科 肛門病科
專門
松村胃腸性病科醫院
平町南町（電一〇七番）

内臓外科
エツキス光線
院長　安齋徹
新設
産婦人科
醫學士　黒澤廣
入隨意
平町田町
安齋醫院
電話四七五

外科・花柳病專門
入院隨意
平町六丁目
木村外科醫院
電話三〇九番

平町田町（電話五一三番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　レントゲン科

拜啓亡夫安太郎送葬の際は御多忙中にも不拘遠路態々御會葬被成下且御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志の段難有奉深謝候一々拜趨御禮申上可の處乍略儀紙上を以て御禮迄申述度如斯御座候

敬具

昭和十二年二月二十七日

四倉町新町
大和田キチ
外親戚一同